

プラダリア Pradaria

牡 鹿毛 2019.4.3生
北海道新冠町 オリエン特牧場生産
馬主・名古屋友豊株 栗東・池添学厩舎
馬名意味・草原(ポルトガル語)

ゲートドクールIRE系 F4-I

ディーブインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA 青鹿毛 1986	Halo Wishing Well
	ウインドインハーヘアIRE 鹿毛 1991	Alzao Burghclere
シャッセロール 鹿毛 2010	クロフネUSA 芦毛 1998	French Deputy Blue Avenue
	ボボラス 栗毛 2001	フォーティナイナーUSA
		リトルオードリー

5代までのインブリードなし

INTERVIEW

中川信幸代表(オリエン特牧場)

強い競馬を見せてくれました

前走の有馬記念ではプラダリアの力を発揮できませんでした。今回はメンバー的にもいい競馬をしてくれるのではないかとオーナーと話していました。ゴール前ではもうひと伸びして差し返したように強い競馬を見せてくれました。これでG II 3勝目、さらに上を目指して次走の大阪杯でも頑張ってくれることを期待しています。

S.Setoguchi



最内枠を引いたパビットか、大外枠のアフリカンゴールドか。注目された主導権争いは二の足に優った後者が制し、単騎の逃げに持ち込む。無理には
競り合わず、離れた2番手に控えたパビット以下の馬群は比較的密集。プラダリアの池添謙一騎手は折り合いに専念して4、5番手につけ、ペラジオオペラ、また、対抗候補と目されていたエリザベス女王杯の2着馬ルージエヴァアイユは直後の中団を進んだ。
時計を要する決着が目立つ馬場に緩みのないラップを刻んで逃げたアフリカンゴールドは直線入口で失速、他馬が敬遠した内ラチ沿いを突いたパビットがかわって先頭に躍り出る。しかし馬場の外めに持ち出されて加速にかかったプラダリアとペラジオオペラが並んで強襲し、残り200m地点を過ぎたからは2頭の一騎打ちに。ペラジオオペラもよく食いがつたものの、斤量が軽く軽い相手の逆襲を頑として阻んだプラダリアが勝利を手にした。
ディーブインパクト産駒の本馬は3歳春に頭角を現し、未勝利戦、青葉賞を連勝。4歳を迎えた昨年も日経新春杯、京都記念で3着に食い込むなど中距離路線を賑わせ、秋の京都大賞典ではボツケリーニ、ティーフボンドらの古豪を下して重賞2勝目を挙げた。弾みをつけて挑んだ有馬記念は一線級の壁に跳ね返されて大敗(14着)を喫したものの、態勢を立て直されて臨んだ5歳の始動戦を白星発進。新たな産駒のデビューが途絶えた後も存在感を示し続ける父に15年連続となるJRA重賞制覇をプレゼントした。

父ディーブインパクト

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央、仏14戦12勝(ジャパンC^{G1}、日本ダービー^{G1}、皐月賞^{G1}、菊花賞^{G1}、有馬記念^{G1}、天皇賞(春)^{G1}、宝塚記念^{G1})、年度代表馬2回、07年から供用され、19年死亡。12~22年日本リーディングサイヤー。10~14、16~21年日本2歳リーディングサイヤー

(代表産駒)コントレイル、ジェンティルドンナ、グランアレグリア、シャフリヤール、ロジャーバロース、ワグネルアン、マカヒキ、キズナ、ディープリランテ、サトノダイヤモンド、ミッキークイン、ディーマジェスティ、アルアイン、フィエールマン、ワールドプレミア、アスクビクターモア、ラヴズオンリーユー、シンハライト、ハープスター、マルセリーナ、アユサン(以上国内クラシック勝ち馬)

母シャッセロール

北海道新冠町 オリエン特牧場生産 中央13戦3勝(祝園特別)
アドベントクランツ(16 牝父ロードカナロア)中央4戦0勝、地方21戦3勝
ヴェントポニート(17 牝父ディーブインパクト)中央18戦2勝
(18 前年種付せず)

プラダリア 本馬(19 牝父ディーブインパクト)中央15戦4勝(京都記念^{GII}、京都大賞典^{GII}、青葉賞^{GII}、京都記念^{GII} 3着、日経新春杯^{GII} 3着) 獲得総賞金258,026,000円

グランデサラス(20 牝父エピファネイア)中央8戦1勝 @

パフェームセント(21 牝父ドゥラメンテ)中央1戦0勝 @

(22 牝父ロードカナロア)

(23 牝父キズナ)

祖母ボボラス

北海道静内町 高橋修氏生産 中央0勝。14年用途変更

ヴェルーテ(09 牝父ディーブインパクト)中央1勝

シャッセロール(10 前出)

ラディウス(11 牝父マンハッタンカフェ)中央3勝(逢坂山特別)、障害0勝

エスピリトゥオーゾ(14 牝父ダイワメジャー)中央2勝

曾祖母リトルオードリー

北海道早来町 社台ファーム生産 中央3勝(報知杯4歳牝馬特別^{GII}、紅梅賞^{III}、オークス^{G1} 3着)、06年死亡

ボボラス(01 前出)

四代母ゲートドクールIRE

仏2勝。92年輸入、05年死亡、**ココバシオンFR**(シェーナ賞・仏^{G3})の母、**ノヴァレンダ**(全日本2歳優駿^{J1}、ダイオライト記念^{J1})の祖母

態勢を立て直され3勝目の重賞勝利

阪神を舞台に争われた昨年は復権の勝利を飾ったドゥデュースを筆頭に、4歳馬が上位を独占した伝統のG II 京都記念。4年ぶりに京都で争われた今年はスプリングS、チャレンジCと重賞を2勝、ダービー4着の実績も持つ4歳馬ペラジオオペラが断然の支持を集めた。しかしその前に立ち上がったのは昨年の3着馬プラダリア。ドゥデュース世代のダービー5着馬が、一日の長を示して追い比べに競り勝ち、重賞3勝目を挙げた。
時計を要する決着が目立つ馬場に緩みのないラップを刻んで逃げたアフリカンゴールドは直線入口で失速、他馬が敬遠した内ラチ沿いを突いたパビットがかわって先頭に躍り出る。しかし馬場の外めに持ち出されて加速にかかったプラダリアとペラジオオペラが並んで強襲し、残り200m地点を過ぎたからは2頭の一騎打ちに。ペラジオオペラもよく食いがつたものの、斤量が軽く軽い相手の逆襲を頑として阻んだプラダリアが勝利を手にした。
ディーブインパクト産駒の本馬は3歳春に頭角を現し、未勝利戦、青葉賞を連勝。4歳を迎えた昨年も日経新春杯、京都記念で3着に食い込むなど中距離路線を賑わせ、秋の京都大賞典ではボツケリーニ、ティーフボンドらの古豪を下して重賞2勝目を挙げた。弾みをつけて挑んだ有馬記念は一線級の壁に跳ね返されて大敗(14着)を喫したものの、態勢を立て直されて臨んだ5歳の始動戦を白星発進。新たな産駒のデビューが途絶えた後も存在感を示し続ける父に15年連続となるJRA重賞制覇をプレゼントした。